

名神彦根インター横の巨大ギャンブル施設 競輪・競艇の券売場建設に反対しましょう！



名神彦根インター横に巨大ギャンブル施設を建設する計画が進められています。これは日本各地で行われる競輪と競艇の実況映像を大型スクリーンで見ながらお金を賭けるギャンブル施設で、年間数十万人のギャンブラーを呼び寄せようというトンでもないものです。競輪と競艇の二つの場外券売場を全国で初めて併設するという巨大ギャンブル施設だけに、近隣地域に与える影響も大きく、周辺の住民などから大きな反対の声が上がっています。

「歴史と文化のまち」が

「ギャンブルのまち」に

前市長の市議会答弁によりますと、このギャンブル施設は ㈱トランスワードという民間会社が原開発委員会から約五ヘクタールの土地を借りて建設する計画だそうです。

利用者数と稼働日数から年間入場者数を計算しますと約43万人となり、彦根城の年間入場者数41万人余（昨年度）を上回るようになります。

彦根市の玄関口に、このような巨大

ギャンブル施設が出来てしまえば、

彦根市の「歴史と文化のまち」というイメージは、忽ち「ギャンブルのまち」という情ないものになってしまうでしょう。

そして、彦根城を世界遺産に登録して観光産業を発展させようという夢も、若者に愛される学園都市をつくらうという夢も、無残に打ち砕かれてしまうでしょう。

市長の「反対」にもかかわらず

「場外車券舟券売場建設反対」を公約に掲げて当選した獅山向洋市長は、

六月議会の答弁で「反対理由」を次のように述べました。

「まず、何といいましても周辺住民が反対しておりますし、青少年の育成の障害にもなると考えております。また、学園都市構想にも反すると考えますし、交通渋滞の原因にもなると思います。

さらに、ギャンブルによる家庭崩壊の可能性が強くなる。また、美しい彦根の創造という観点からいたしまして、ギャンブル施設は要らない、と考えて

おります。」

獅山市長の言う通り、この場外券売場は、彦根市にとっても、また、市民生活にとっても大変有害なものです。

しかし、場外券売場の建設計画は、市長や市民の反対にもかかわらず、今なお執拗に進められております。

特に、競輪の場外券売場については、市長が反対していても設置できる事から建設が強行されようとしています。

早急に、「ギャンブル反対」の声を広めていくことが求められています。

（ウラへ続く）